

国際社会学 現代アメリカらしさの諸相 Part II

第五回 平成26年11月29日(土) 10:00~12:00

フェミニン・ミステイク

女性・家族・中産階級のアメリカ

講師：東京外国語大学・大学院教授 金井 光太郎 氏

昨年に続いての金井教授の講義です。相変わらずのエネルギーでパワフルの講義と金井節を堪能させて頂きました。

今回の講義内容は、「男と女のせめぎ合い」について19世紀からの変遷です。その変遷を、歴代大統領およびイギリス女王をKeywordにして展開する。その手法は説得力があり、感心しました。

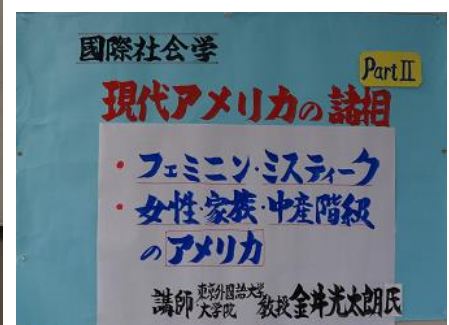
冒頭での大統領になる前のアダムズ書簡(1776年3月31日付)が披露され、その内容の表現の強さにも驚きました。世相に応じて「男と女の役割・領域」の社会的・法的な変遷は留まることなく永遠に続くようです。

※講義ストーリー：アダムズ ⇒ ジャクソン ⇒ (ヴィクトリア)
⇒ ローズベルト ⇒ ケネディ⇒クリントン、オバマ

今日の受講生42名



以下は、講義風景です。



<講義風景>



※講義中に右・左と動き回る先生の様子（ほぼ3～5秒内での動き）



以下は、講座のレジメです
 赤文字は私なりに興味を持ったKeyWordです

(1) 19世紀市民社会のジェンダー観

① 共和国市民の男と女

男性市民が担う共和主義政治

急進ホイッグも君主制の階層社会と男性中心の価値観

—公共分野は財産有し、独立した成人男子の特権であり義務

市民的共和主義 政治超えて社会一般に公共領域

野蛮・農耕・封建→ 商業社会へ発展とする

自由な商業活動と洗練作法による社交が文明開化の鍵

社会全体では男女平等に含み—婚姻に女性の同意も考慮

→ 共感によって引き合い、社交通じて啓蒙し合う

女性は参政権なくとも社会への積極参加

洗練されて教養ある女性の美徳こそ重要

共和国 ←教養ある有徳な人民の自由な意見交換と社交に支えられた、
開かれた文明社会が不可欠

女性含む広汎な公教育があつて市民の美徳

男女問わず教養と徳で参加できる開かれた公共領域

→ 女性の視点からの歴史、戦争になれば女性も巻き込まれる

② 共和国の母

男女の領域

政治・軍事は男性の関心事

←→社会全体の幸福への関心はあらゆる人間に平等にわき起こる

有徳な市民を教育するのは有徳な母、利他的活動分野—ガーディアン・エンジェル

女性史家 戦争に翻弄される民衆を描く努力

自由の共和国—自由の女神が表象する

専制支配者—力づくで野蛮、男性的

—美徳と繊細な特長活かした歴史書をめざす

③ 家父長制と女性の法人格喪失

家長 人間関係、財産上の人格

妻子はそれに従属するマイナー

妻の財産 動産は夫のものに

債務は夫が引き受ける

不動産には夫の管理権

←→家長にのみ扶養の義務

家長が死ねば子供は法的に孤児とされる

⇒ ここで、後述の「書簡」参照

資料

アビゲイルとジョンのアダムズ書簡

1776年3月31日付けジョン宛

あなた方が独立を宣言されたとの知らせを待ち望んでおります。—そして、新しい法典という形によって、あなた方がその制定を必要とするようになると私は存じておりますが、あなた方が女性のことをお忘れにならないことを望んでおります。昔の方々よりは女性に対してもっと寛容で高い地位を認めて頂きたいですね。かつてのような無制約の権力を夫の手に付与なさるようなことはしないでください。男はすべてできるとなれば専制支配者になるのであることをお忘れなく。もし、女性に対して特別な配慮と注意を払われなければ、私どもは反乱でも扇動する所存ですし、私どもの発言を入れていないで、つまりは代表を持たないで制定された法律に拘束されるものではないでしょう。[中略] あなた方男性が自然に専制支配者であることは揺るぎなく確立された真実なので議論の余地もありません。幸せをお望みであるあなたのような方なら喜んで主人なんていうきつい称号をお捨てになり友達というもっと優しく親しみのある称号の方をお求めでしょう。そうであれば私たちを残酷に馬鹿にしてこき使っても罰さえ受けない邪悪で無法なものたちをそうした地位からはずさないのですか。あらゆる時代を通じて物事のわかっている男性なら私たちをあなた方男性の従者とするようなこうした習慣をひどく嫌ってきました。そして、私たちは天命によってあなた方の保護の下に定められた存在と見なして、最高存在のお方のまねをしてお力を私たちの幸せのためにのみ行使されますよう。

④ ヴィクトリア期の中産家族の理想と女性の領域

聖なる婚姻と愛ある家庭

男女が愛情の絆で婚姻

男が競争社会で稼ぎ女が家で家事育児

男性のステイタスも配偶者によって決まる

家庭の調和が社会的地位の前提—私的スキャンダル、離婚のタブー

(2) 20世紀大衆消費社会と女性の自由

① 個人の自由とロマンチックな結びつき

新しい女性—個人の選択自由

高学歴の中産女性の母

出産数の減、未婚も←→移民女性は高出産

中産階級の家庭像

優秀な市民育てる

男女のロマンチック、純粋な愛でパートナー選び

経済に見合う出産数

母子共に健康配慮

→ 女性自らの意志で出産機会決定すべし

② 喫煙する「自由な」女性

女に道徳求め、男女間の境界明確化求める反タバコ運動

中産階級の母親保護論

タバコは女性の身体に有害

健康な子の出産、健康な家庭ができない

現代女子学生と喫煙規制

女子大不要論

慣例に従わない服装、態度—喫煙、飲酒

高い資質で独立独行に優れる

ウェズリー大学生 寮での喫煙とがめられ退学

学生の主張 NYT に、新しい女性の進歩許さない時代遅れの措置

NYT 社説:喫煙は反抗のシンボルではなく単にくつろぎのものとなっている

それを許さないというのはおかしい

③ 勧める男性と従順な女性

広告でも優しい父や夫が勧めてくれたとする

批判するのではなく勧める寛大で洗練された新しい男らしさ

父と娘、夫と妻が共に喫煙を楽しむ

女性の喫煙が社会に受け入れられるための新しい女性喫煙者イメージ要す

→ 男と女が共に喫煙を楽しむ

女は男に従順、男は女に寛大

既に現実では消費、労働において女の領域拡大

女性、公的空間を移動し安価な労働力提供で雇用拡大→女性喫煙、顕在化

(3) スウィート・ホームの理想

① 郊外住宅によるジェンダー化社会

単婚小家族の持ち家住宅—パパ、ママと子供3人

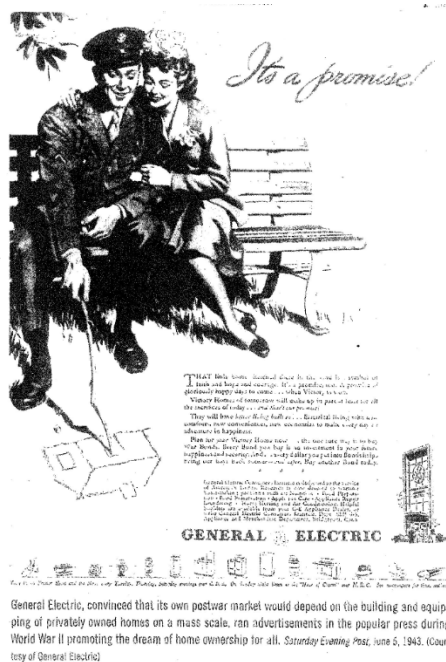
郊外住宅の開発—デベロッパー

インフラの整った住宅街—電気、ガス、水道整えて

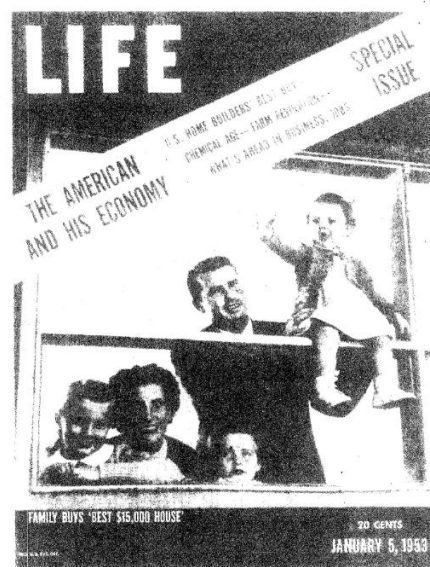
機械化された住宅

プレハブ工法によるコスト削減—人件費、工期短縮

収入階層による同質コミュニティ



in the postwar Consumers' Republic, even the bride's acquisition of a new electric coffee pot promised to benefit the public good. Robert Suran. (Courtesy of Carpenter Center Photographs Collection, Harvard University)



den, one of the *Life* cover, affirm the importance of home building to postwar prosperity, but it also commented through topical outlining the dominance of men over women in "The Economy," as businessmen like Dale Whiting reigned over wives and children, however, they found themselves rarely domesticated in their postwar homes. In June 1945, *Esquire* magazine instructed its male readers: "Your place, history, is in the home." In an article titled "Home Is For Menstrual, too," dated January 5, 1952, *Esquire* of men's troubles like

② 家族賃金の理想

高収入高消費による消費者共和国の実現、豊かな社会

購買力の上昇、維持一生産性の高い大企業で高賃金実現、年金、保険も

正社員として安定して働く男性労働者に集中、特に高学歴の大企業社員

一家全員の福祉水準が男性働き手次第になる

年金保険も正社員ベース、男性の職次第

税制上の優遇—配偶者控除等

③ 専業主婦の憧れ

働きに出ることなく家事育児に集中

家を守り、夫と子供に愛情を注ぐ

機械化による家事労働負担の「解放」← 家電製品、システム・キッチン

フェミニン・ミスティーク

知性教養を駆使してホームを最高水準の状態に

清潔、栄養、保健、経済性、合理性の追求

諸情報を収集し、創造的にホームを作ることが求められる

特に、子育ての責任

④ 『フェミニン・ミスティーク』(1963年)

ベティ・フリーダン、専業主婦の不安、不満抱きながら人生

社会と切れたスウィート・ホーム、家庭に依存する自己

核家族の孤立、平均的家族像の実践に汲々→ 個性的自己の喪失

『スポック博士の育児書』—子供の自主性に介入する、子供通じて生きる

『キンゼー報告』に見る性道徳—周りにはどんなことしているかで善し悪し

親密な人間関係のない生活⇒夫婦間の親密なセックスに人間らしさ求める

社会において自己実現追求することで人間的成長

→ 自己実現により家族も幸福を訴える

以上です。